

Japa

コロナ禍×イノベーション×地方創生

Newsletter

2021年6月1日 #15

編集発行人：Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

発行元：Japa 日本専門家活動協会 <http://www.japa.fellowlink.jp/>

INDEX

1. コラム「論点提起」：現場力や如何
2. キュレーション「関連情報&Topics」：コロナ禍×イノベーション×地方創生
3. 紹介「海外に学ぶ」：TOD（公共交通指向）型再開発で賑わいと産業再生を目指す
米国・デンバー・Denver 3 （Japa 理事 小畑きいち：青山学院大学元客員教授）
4. 寄稿：碁会所開所7年目を振り返って （みなと囲碁将棋クラブ 席亭 河合盛彦）
5. 稽古照今・寄稿：たのし歌謡談義 その1 （作詞・作曲家 高橋育郎）
6. 解説「関連データ・用語・仕組み」：TOKYO 2020 の計画
7. Blog 仕組みの群像：コロナ禍の諸相
8. 読者の声
9. Japa からのご案内
10. つばやき（編集後記に代えて）

注：担当執筆者名の記載のない項目は、編集発行人（芝原 靖典）による。

- ※ 本 Newsletter は、Japa 日本専門家活動協会が毎月1日に発行する会員向けの Newsletter です。現在は、コロナ禍を勘案し、Japa 会員以外の関心者の方々にも無料配信しています。
- ※ 本 Newsletter は、双方向型の意見交換・交流等をめざしています。Newsletter の各コーナーの内容に関するご意見、執筆者・寄稿者との交流希望等をお寄せください。
- ※ Japa 新型コロナウイルス感染症特設コーナー <https://www.japa.fellowlink.jp/blank-25>

Japa 会員募集中！

Japa は、より多くの方々が発見し、交流・連携・共創できることをめざして、そして Japa の活動にご支援賜りたく、新たに「一般会員」（年会費 3 千円）枠を設けました。入会金無料のいま、ぜひ、入会のご検討を賜れば幸甚に存じます。

入会に関するお問い合わせ先：Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

1. コラム「論点提起」：現場力や如何

1989年12月29日(東京証券取引所 大納会日)、日経平均(株価)が史上最高値 38,957円44銭を付けた翌年開けからバブルが弾け、1990年代に戦後以来の数々の神話が崩壊した。「地価は下がらない」、「銀行は潰れない」、「大企業は潰れない」……。そして、いまでも続く日本メーカー群の競争力劣化、品質データ改ざん・出荷検査不正等による「工業立国」「日本品質」の崩壊。行政においても、政府統計の不正放置、文書保管の不適切取扱等々「行政品質」の溶融。そして、現下のコロナ禍で露わになったのが、「先進国」という神話が崩壊した惨状。こうした状況に通底しているのが、「現場力の劣化」ではなからうか。

第二次世界大戦の敗戦により、各界でリーダー層が排除され、現場(非リーダー層)にいた者とリーダー層が入れ替わらざるを得なかった。あるいは、新たに企業が勃興した。(これは明治維新時と似ている) 結果して、上から下まで、現場力があり、戦後の高度成長を支えたのではなからうか。世界を見ても、今はときめくプラットフォーム企業 GAFAM もその出発はガレージであった。現場を知るガレージ時代の創業者が今も経営を引っ張っている。

そうした現場力を生み、維持し、継続させていく源泉は何か。それは長期的な理念であり、目的ではなからうか。そして、それを短・中期的に具体化したものがビジョン/目標であり、そのための戦略/手段がある。しかし、現在の日本は、これらの全てが、いま、曖昧/希薄/不存在になっているのではなからうか。故に、往々にして目標・手段が偽目的化する。場合には、「やったふり」が横行する。その方が楽だからである。

目的もなく、「ビジョンを描くことができずに、目先の問題の解決に追われる。この状態を苦しいことだと思っている人がいるかもしれないが、この状態は『安定して快適なゾーン』。先のことを考えずに、目先の問題の解決に追われているのはある種の達成感があり、楽である。本当に苦しいのは、そこから抜け、トラブル脱出のビジョンを描いて前に進んでいこうとするとき。目先の問題解決という快適ゾーンから抜け出すためには、個人としての高いレジリエンスが必要である。」 出典:第247回(2011.03.22) 難局を乗り越えるマネジメントとリーダーシップ(1) ~レジリエンスを高める <http://pmstyle.jp/honpo/note/note247.htm>

なぜ、理念/目的が希薄化し、日本の現場力が落ちたのであろうか。人口急増時代のふるい落としのための安易な減点主義、短期に利益を出す手法としての安易な経費削減、会社の創業期を知らず出来上がった会社のサラリーマン化等にその一因があると思われる。かつての日本企業の良さであった「のりしろ」(目先にとらわれずトライするバッファ)やワイガヤ的な場等が無駄として排除されていき、現場力の醸成の機会が失われていったのではなからうか。生産性追求が単なるコストカット的効率至上主義となり、本来の付加価値創出に至らなくなった。

しかし、いまや人口急減時代。一人ひとりが個としてパワーアップしなければ「先進国」に復帰できない。民間企業も行政も、改めて、現場力の醸成が問われていると思われるが如何。

2. キュレーション「関連情報&Topics」：コロナ禍×イノベーション×地方創生

▼インタビュー 第 51 回 多彩な知識人が集うアテナイに学ぶ知的イノベーションと都市 2021年05月 日立総合計画研究所 <https://www.hitachi-hri.com/reciprocal/i051.html>

古代ギリシアにおける「哲学フィロソフィアの誕生」を研究テーマとしている納富信留東京大学教授へのインタビュー記事である。「古代ギリシア、とりわけアテナイでいかに知的イノベーションが起きたか」を切り口に、対話が続いている。「アテナイにはさまざまな形のコミュニケーションを促す『場』が存在していた」「知識人たちが外からアテナイに集まり、アテナイの土着文化とうまい具合にマッチしました」「『無知の知』という言葉は、人々を分かったつもりにさせるものの、実は意味の分からないものです。」「アリストテレスが造語した『普遍』とは、すべてのものに本質的に当てはまると言う意味。現代は、普遍的に世界をみていく視野と態度を養っていくべき時代にさしかかっている」等々、面白い。インタビューする側が語りすぎ、インタビューされる側のせつかくの語りが少なくなっているのが残念ではある。

▼新型コロナ後「世界はもう元の通りにはならない」という結論 山口 周 2021.5.4 幻冬舎 GOLD ONLINE <https://gentosha-go.com/articles/-/33254>

哲学科卒のコンサル経験者で著述家、パブリックスピーカーという経歴者の著書「ビジネスの未来」の一部抜粋・編集である。哲学科出身らしいコロナ禍・コロナ禍後を論じるにあたり、その前提として「そもそも、コロナ直前の世界は、どのような文脈の最中だったのか」と問い、日本及び世界の価値観調査データを用いて考察している。「コロナ流行前、人類史上はじめて『物質的貧困』を解消されていた」、「バブル崩壊以降、『満足度』『幸福度』はむしろ改善」「もはや『経済成長』と『幸福』は無関係」等々。しかし、データをよく見ると、幸福度、満足度の分断が進んだとも云え、SDGs の理念(誰ひとり取り残さない)が想起される。日本の Well-being は戦後以来、向上していないと述べる予防医学者の石川善樹氏の論と突き合わせて考えると、「経済」か「コロナ/命」かで揺れ動く世相の中、色々考えさせられる。

参考：ウェルビーイングへのアプローチ ―日本的ウェルビーイングの可能性 vol.3

【スピーカー（特別ゲスト）】石川善樹 http://www.a-m-u.jp/report/201703_wellbeing3.html/

▼社会ビジョン委員会 報告書 ポストコロナの生き方、働き方を考える ～誰もが自由に生き方を選択できる社会を目指して～ 2021年4月 公益財団法人 日本生産性本部 <https://www.jpc-net.jp/research/assets/pdf/9f089a230f05c43e65c561a92de6c5b0.pdf>

「消滅都市」で論議を興し、いまは日本郵政 CEO の増田寛也委員長による提言である。日本の社会システムは、企業をベースとした仕組みとなっているが、本提言は「個人」にシフトし、「個人を支えるセーフティネットの再構築」を行い、結果して、「多様な生き方、働き方を軸とした多極共生社会への転換」を提言している。その背景には、「日本は既に人口急減社会を迎えている。経済活動だけではなく、様々な社会的機能を維持し、社会を発展させていくためには、より多くの人たち、多様な個性を持った人たちが力を合わせていくことが必要となる。」そして、コロナ禍により、「個人の自由と社会の秩序と同時に、国家の自由と世界の秩序も問われているのである。」という問題認識がある。コロナ禍後の社会のあり方を考える際に一つの道標となる。このような考え方をいかに社会として共有できるかが問われている。

▼日本が完全に出遅れた第三次プラットフォーム戦争 2021年05月07日(金)16時50分
Newsweek <https://www.newsweekjapan.jp/ichida/2021/05/post-23.php>

カナダ在住のサイバーセキュリティミステリ作家による寄稿である。プラットフォームについて分野毎にその経緯、現状、各国の対応策、問題・課題等を整理して紹介している。「SNS、検索エンジン、電子商取引を中心とした第一次プラットフォーム戦争はアメリカ企業が世界のプラットフォームを席卷した。第二次プラットフォーム戦争ではアメリカ以外でのプラットフォーム確立の動きであり、中国企業群が頭ひとつ抜けて普及した。現在、世界はアメリカと中国という巨大プラットフォーム企業群を抱える国家=いわばプラットフォーム国家にさまざまな産業分野のインフラを握られようとしている。これに対抗する動きが第三次プラットフォーム戦争である。」「第三次プラットフォーム戦争は、二大プラットフォーム大国のどちらかに属しながらも、自国の権益を守るための戦いとも言える。」とのこと。このような流れの中、「日本の立場の表明・存在感のなさ」を危惧している。「日本の一部で盛り上がっているMaaSもプラットフォーム戦争のことは全く意識されていないようなので注意が必要だ。」と指摘。対抗手段を講ずるには、「今後の社会のグランドデザインが必要」とのこと、そのとおりである。

参考：国家が関与するサイバー攻撃と戦略的脅威インテリジェンスの活用 2021 No.4 リスクマネジメント最前線 東京海上日動リスクコンサルティング(株) <https://bit.ly/34weUpf>

▼森岡毅が語る「地方創生が進まないのはなぜか？」～山を宝に変えるノウハウ～2021.5.10
森岡 毅戦略家・マーケター 日経ビジネス <https://bit.ly/3wK4EWv>

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)や西武遊園地をマーケティングにより再建したマーケターによる地方創生論である。「地方創生の本質は、安定雇用を生み出すことであり、リソースの地方には、地域の消費者価値(需要/市場)を創り上げるマーケティング(ノウハウ)が欠かせない」との実務者らしい論述である。アプローチが何であれ、ここで言及する「考え抜く」ことの重要性は変わらない。考え抜いてそれを次に如何にわかりやすく具体的サービスとして提供していくか。まさに、『全力集中』である。企業はもちろんであるが、地方創生のプラットフォームフィールドを提供する基礎自治体において、こうした全力集中する/できる企業活動をいかに活かせる/支援できるか。基礎自治体においても考え抜いて欲しい。

参考：地方創生における「マーケティング志向・幸せ志向」の必要性 2021-05-24 pwc
<https://pwc.to/3uzWij6>

▼観光地のレジリエンスを考える [コラム vol.445] 2021.05.10 JTB 観光政策研究部活性化推進室 主任研究員 福永香織 <https://bit.ly/3hTDW9Y>

コロナ禍の影響が直撃している観光業界のJTBの研究員によるコラムである。観光分野におけるレジリエンス論は「2010年以降」からということでもまだ日が浅いとのことであるが、本コラムは内外の多様な分野におけるレジリエンス論のレビューとして大いに参考になる。レジリエンス概念は、「観光地マネジメントに適用され、デスティネーション・マネジメント、デスティネーション・ガバナンスに続く概念『デスティネーション・レジリエンス』として注目されている。」とのこと。コロナ禍による影響(観光需要の消滅、縮退、観光行動変容等)に対して、仕組みを含めた観光レジリエンス(適応力)の構築を地方創生のためにも期待したい。

3. 紹介「海外に学ぶ」：TOD（公共交通指向）型再開発で賑わいと産業再生を目指す 米国・デンバー・Denver, Colorado 3

（Japa 理事 小畑さいち：青山学院大学元客員教授）

交通基盤整備の拡張とレイル路線延伸

デンバー市内ダウンタウンにおけるトランジットモールの整備は市民に街を歩く楽しみを与えたことで一気に住民の街路・公共交通整備への理解を高める効果を発揮した。1987年コロラド州議会で“FasTracks”法案（公共交通網拡張計画）が可決採択されることが、デンバー・メトロ圏の公共交通の本格的な拡充の契機となった。

これまで、デンバー市内には民間企業がバス路線を主体とした公共交通を運営提供していたが、全国的な自動車の普及で、1940年代以降、バスの利用者が激減し利用者急減により、経営危機に陥った。1969年にデンバー市は助成・支援に動き、半官半民の「Denver Metro Transit」を結成し再生を図ったが、経営は好転せず経営破綻となった。

過剰な自動車の普及は、多くの都市で交通渋滞と排気ガスによる大気汚染を生じ課題として浮上した。デンバー市はロス・エンジェルズ市と並ぶ全米でもトップクラスとなる悪名高い大気汚染都市となった。さらにデンバー市は標高1マイル（約1.6Km）で、自動車排気ガスの大気圏の飛散が大きく、さらにロッキー山脈が西風を遮ることで気流の停滞を生じる。このような地理・気候的特徴がさらなる環境悪化の要因ともなった。こうした都市環境の悪化が生活にも影響を与えることとなり、自然環境が良好とされたデンバー市の都市魅力を低下させた。

デンバー市は、自動車に過剰に依存しない魅力ある都市の形成と将来的な都市発展を目指すためには、都市計画家ピーター・カルソープが提唱するTOD型（Transit-Oriented Development=公共交通指向）による再開発が最適と考え、TOD型開発を採用すると決定した。

“Denver Regional Council of Governments”（デンバー・メトロ圏地域自治体協議体）は経営破綻した「Denver Metro Transit」をRTD（Regional Transportation District）へ運営移管し、都市再開発と公共交通基盤整備を推進することした。

ここで、デンバー・メトロ圏におけるLRT・鉄道網の拡張経過の推移を追って、以下に記す。

1973年：公共交通整備運営の一部として、売上税の0.5%を整備費用として充てることを住民投票で問い、賛成多数で承認された。

1980年：地元建設資金に加えて連邦政府より“the Federal Interstate Highway Transfer Funds”（Interstate 高速道路維持財源移譲準備基金）と“Federal Urban Mass Transit Administration”（連邦政府運輸省の補助金）の支援を受ける。73マイルの敷設計画を策定。

1982年：ダウンタウン中心部16番ストリートにショッピング・モールを整備。バス路線を統合整理しながら、トランジットモールとして整備を拡充する。

1994年；最初のLRT（軽快路面電車）がダウンタウン中心部の30th&Downing から Broadway まで5.3マイルを開通。1日の利用者が約1万6千人となり、車両11両で運行開始する。



この路線は今日でも乗降が多い。16番ストリートにおけるトランジットモールで既設の“MallRide”（無料シャトルバス）と共にダウンタウンの交通基盤として根付き、街の賑わいに寄与し、市民全世代層に快適な移動手段のひとつとして定着している。

2000年：Southwest 線が郊外の Littleton までに路線開通。

2001年：デンバー市、RTD, コロラド州交通局は協働で将来の公共交通のハブ構想に沿い Denver Union Station を取得購入。

2002年：The Central Platte Valley 線開通。the Pepsi Center, Mile High Stadium（コロラド・ロッキーズ球場）とコロラド



ラド・ロッキーズ球場）とコロラド大学デンバー校、デンバー・メトロポリタン州立大学およびデンバー・コミュニティ・カレッジなどが集結する Auraria キャンパスを結ぶ。

Denver Union Station

そして Denver Union Station まで鉄道敷設を計画。

2004年：公共交通整備“FastTracks”計画案が住民投票で賛成される。6路線計画とフィーダーバス（接続バス）路線整備と Denver Union Station の再開発計画を推進。

2006年：Southeast 路線が Lincoln まで延長開通。

2010年：Denver Union Station の改築工事開始。

2013年：Denver Union Station から Golden まで開通。



改築された Denver Union Station

2014年：Denver Union Station の運用再開、Amtrak^(注1)、LRT、バス、Commuter train など公共交通基盤のハブとなり、デンバー空港とも接続される。(注) 1：Amtrak は米 National Railroad Passenger Corporation が運営する旅客列車で、Amtrak は America と Track を合成したブランド名。

2016年：Commuter Train (Hyundai Rotem 製、電気制御関係は三菱電機) が Denver Union Station とデンバー空港間で開通。そして、Westminster へ延長開通。ダウンタウン中心部の”Free MallRide”に電動バスを供用開始。



Commuter Train

MallRide の電動バス

2020年：Commuter Train、Denver と Adams County, Commerce City, Northglenn、Thornton -Genova 間で開通。全長路線 113 マイル (182 km)、74 駅 12 回線 (2020/9 現在) で全米 8 番目の路線規模となる。



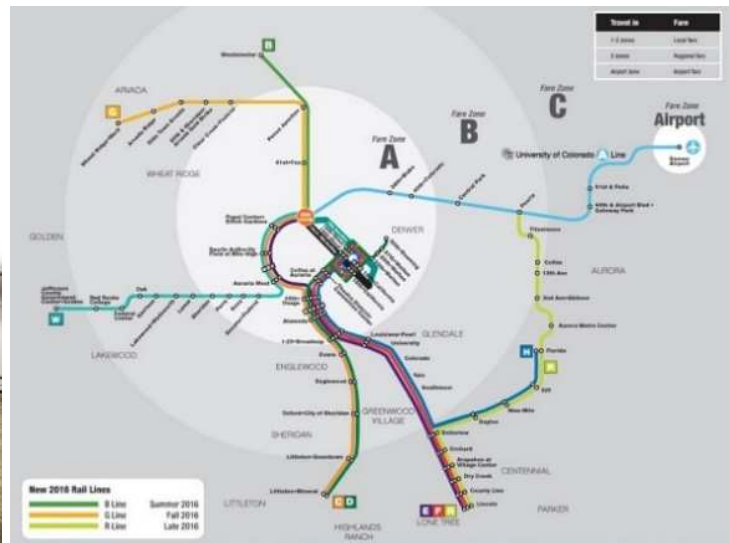
Commuter Train 開通当日

RTD：LRT, Commuter Train の料金設定：路線が A ゾーン、B ゾーン、C ゾーン、D ゾーンと RAIL FARE ZONES 別料金設定となる。

- ・ A、B、C 各ゾーン内：ローカル料金として (片道\$2.60)
- ・ A⇔B、B⇔C とゾーン隣接間の移動：ローカル料金 (片道\$2.60)
- ・ A⇔C ゾーン間の移動：Regional 料金 (片道\$4.50)
- ・ D ゾーン, デンバー空港発着の場合は、片道\$9



TRD 路線集中監視コントロール室



ゾーン別料金路線図

料金は安価でなく、計画では都市生活の快適と環境対策を優先している。50 年の路面電車空白を乗り越えた公共交通整備は米国北東回廊、西海岸の州以外の地域では珍しく画期的で TOD による都市再開発のモデルとされている。

【参考】

- (1) <https://www.rtd-denver.com>
- (2) 16th Street urban design, Denver city 2010
- (3) Denver RTD Transit Oriented Development Design Fastracks 2012

4. 寄稿：碁会所開所7年目を振り返って (みなと囲碁将棋クラブ 席亭 河合盛彦)

私のサラリーマン人生最後の仕事は震災復興の手伝いだった。2011年3月東日本大震災当時、私は東京海上日動火災リスク管理部に所属していた。地震対策本部が直ちに設置され、私自身も直後の4月には福島県に現地入り。福島第一原発近くの現地の光景は凄まじいという言葉ではとても言い尽くせなかった。海岸線から3～4キロは何もなく、田んぼのあぜ道に打ち上げられた漁船の姿は今でも忘れられない。

2012年7月に退職したが、その直前の4月に日本棋院常務理事の大淵先生から囲碁アマ七段免状の推挙を頂いた。特段実績のない私としては高段位の免状は荷が重かったが、先生の「将来性を買いたい」とのありがたい一言に背中を押された。事務局からは「飛び級」と言われたこの時点では、将来囲碁クラブを開所するとは夢にも思わなかった。

2014年4月南戸塚に「南戸塚囲碁クラブ」を開き、2018年1月に戸塚駅前に店を移し、「みなと囲碁将棋クラブ」に改称して現在に至る。クラブ開所にあたり、周りの殆どの人から「1日楽しく遊んだ料金が900円ではどう考えてビジネスモデルが成り立たない。将来性もない」と反対された。正直、「顧客の高齢化と減少、後継者問題、脆弱な財務体質」の三重苦。これは、日本の2040年問題の縮図と言えよう。

それでも最初のお客様、東京海上日動火災の樋口公啓元社長から「河合君やってみたら、応援するよ」と、温かい言葉を頂いた。大淵先生からは、若手プロの奥田あや先生と田尻悠人先生を派遣して頂けることになり、何ら事業基盤もなかったが、クラブを始めることにした。お店のキャッチフレーズは「碁は奥が深く、脳と指先が刺激されて10歳は若返りますよ」。

囲碁は「序盤・中盤・終盤」の3つのゲームからなると考えている。最終的には「地(陣地)」が多い方が勝つゲームではあるが、「序盤」は地を取ることにこだわり過ぎず、まずは石を繋げるゲームと考えた方が良い。しっかり石を繋げれば、「地」は後から自然とついてくる。「中盤」は石を繋げるか地を取るか選択するゲームと考える。そして「終盤」は地を取るゲームとなる。「序盤・中盤・終盤」の区別は自分が決める。決めたら、「序盤・中盤・終盤」に合った打ち方を意識する。



「弱い石」は作らない。周りに相手の石が多くなればその分、自分の石は弱くなるからだ。石を強くする手法は3つ。1つは「他の自分の石と繋げる」。2つは「自分の力で生きる」。3つは「相手の石をとる」。どの手法もメリット・デメリットがあるが、一つの手法を多用すると弊害が出ると考えた方が良く。特に3つ目は、相手もいるので定石や手筋をより磨いた方が勝つ。ハイリスクハイリターンの手法と言えよう。

2016年1月にGoogleのAlphaGoというプログラムが、プロ棋士と対等に対戦したとの衝撃事実がNatureで紹介された。AIはその後、「ディープラーニング、強化学習、モンテカルロ」の三手法を組み合わせて驚異的な成長を遂げた。まさに、ダーウィンの進化論を電子レベルで行ったと思えてくる。

囲碁は $19 \times 19 = 361$ 目と打てる箇所が桁違いで実現可能面数は約 2×10^{170} 通りあり、コンピュータがプロ相手に勝利することは難しいと言われていたが、今では相当なハンデ戦でも勝てるプロはいない。囲碁界の前提が崩れてしまった。そこに新型コロナウイルスの猛威が襲う。三重苦の囲碁界はひとたまりもない。この1年でかなりの碁会所が店を閉じた。

偉そうに書く私の碁の実力は碁の門に漸くたどり着いた程度だ。まだまだ弱い。しかし、囲碁は必ずしも勝つことだけが目的のゲームではない。強いことが全てであれば、AIに任せておけばよい。碁盤は曼荼羅の世界と捉えることもできる。盤上の九つの星(黒い点)を気功でいうツボと見立て、七段免状に恥じないよう太極図のように打つことができたらうれしい。



もしも横浜港ベイブリッジの内と外に巨大なクルーズ船が停泊するようになり、モナコ風に変貌した赤レンガ地帯のコンベンションホール内に囲碁コーナーができれば、海外から来たお客様に腕を振るってみたい。東北の地から山の幸海の幸が届き、囲碁を通しておもてなしができれば最高だ。

今教えている生徒の中から将来一人でも、日本だけでなく東南アジアを始め海外の人との文化の輪を繋げる人に成長してくれたらと願っている。インターネットを駆使したバランス碁の達人が出てきたら鬼に金棒。日本文化としての囲碁の役割にも希望が持てる。

人間万事塞翁が馬、禍福は糾える縄の如し。

5. 稽古照今・寄稿：たのし歌謡談義 その1 (作詞・作曲家 高橋育郎)

流行歌の消えた日

[2004年(平成16年)記]

自由経済のもと、技術革新めざましく、世の中、日進月歩の勢いで変革をとげていますが、歌の世界も同様に、またものすごい勢いで変容をきたしています。

テレビの歌謡番組は、この十四、五年は、以前より若干数を減らしていますが、それでもゴールデン・アワーには相変わらずヤングパワー攻勢で、アイドル歌手花盛りです。

それら顔ぶれは、次から次へと、めまぐるしく極く短い周期のうちに変わって行って、われわれ年配者には、名前をおぼえているいとまさえありません。

わずかに、NHKが火曜日の夜に、ずっと以前からの馴染み「歌謡ステージ」が健在で、かつて、わが国をリードしていた流行歌は、まさしくその時代を反映し、一般大衆に溶け込み、長く愛唱されましたが、いまでは一般に広く歌われる以前に、泡沫のごとく消えてしまうのが大部分で、流行歌と呼ぶにしても、あまりに周期が短すぎるようです。

ところで、いかがでしょうか。流行歌といっても、この言葉に馴染みのない人がかなり多くなっているのではないのでしょうか。それもそのはず、流行歌という言葉が聞かなくなって三十数年にもなります。

時のたつのは早いとは、よく聞く言葉ですが、私もいつのまにか七十台も半ばになってしまいました。その私たち年代は、流行歌のなかで育ったとって過言ではないほどに、全盛時代を過ごしてきました。年代でいうと昭和三十年後半くらいまでです。

ただ、その時代は、歌の世界は結構バラエティーに富んでいて、ジャズ、シャンソン、ハワイアン、そしてダンス音楽のタンゴ、ワルツ、ブルース、ルンバ、マンボやチャチャチャ、そしてラテンといった具合に、それぞれ流行の時代を持ちながらも親しまれてきました。

一方、童謡がよくうたわれ、一時代を築き、もうひとつ忘れてならないのがNHKのラジオ歌謡の存在でした。

さて、現在の歌謡界は、と見てみますと大雑把に見て、いわゆる演歌とポップスでしょう。ポップスにはロックも含めますが、フォークソングが発展したニューミュージックです。

そこで、今言われている演歌に話は移りますが、演歌は従来の流行歌の流れを汲むもので、流行歌が母体と解釈されますが、それではいつ頃、演歌になって、どうして演歌になったのか、それを説き起こすのが、本題になります。

いまではポップスの向こうを張って、七五調で綴られた歌謡曲は、演歌と呼ばれることが多くなり、かつて流行歌といわれた歌ですら、懐メロあるいは演歌と呼ばれてしまい、そんなときは、ああ、もう流行歌という言葉はいわれなくなってしまったのだな、とついつい思ってしまいます。それでは演歌とは一体何か。いつごろから言われるようになったのか、そんなことを考えてしまうのです。

それは例えば浪曲（浪花節）が遠い昔のものになりつつありますが、それでも時には演じられて浪曲は浪曲として厳然と残されているのに、流行歌はかつて独立したジャンルであったにも関わらず、ジャンルから外され言葉さえ消えようとしている。実に失われていくものへの愛惜の情にも似た気持になってしまうのです。

「流行歌の消えた日」という少々ミステリアスなタイトルも、この辺の感情的なものがあって考えついものです。

少なくとも歌謡史の中に流行歌の時代があって、約五十数年間存続し、一つの文化であったわけで、その文化の灯が、あっという間に音もなく消えてしまったのです。そこでその変遷の節目のところを、私なりに迫ってみたいと思うわけです。

昔のレコードはS P盤といって、明治初期に出現した蓄音機で、やがて進化して重くて落とすと割れてしまう円盤でした。一回か二回かけると針を取替え、ゼンマイを巻いて円盤を回転させ針を乗せる。すると「針音」というザーザーという雑音が聞こえてくる。



大正三年、帝劇で上演されたトルストイの「復活」の劇中歌、いまでいう主題歌が主演の松井須磨子によって歌われ、レコード化されて、ここに流行小唄のラベルが貼られたところから、流行歌は始まったのですが、いつ頃S P盤がなくなっていったかということ、私の記憶では昭和三十四年、ペギー葉山の「南国土佐を後にして」がヒットしたときでした。父がレコードを買ってきて、その直後針がなくなって買いにいったのですが、もう品薄で入手困難になっていました。並行してE P盤が出始め、三十八年にすべてのS P版は製造打ち切りになりました。

S P盤を手にとってみれば、おわかりになりますが、題名の上に「流行歌」のラベルが記載されていました。勿論、E P盤に切り替わったあとも「流行歌」のラベルは残っていました。

しかし、三十六・七年頃からベンチャーズの来日と共にエレキブームが起こり、グループサウンズ・ブームへと引き継がれていきますが、永六輔、中村八大のコンビで出した「上を向いて歩こう」は、坂本九の唄で世界的大ヒットを遂げ、これなど四十年代に入ってからフォーク・ソング・ブームの先駆けとなり、続く浜口庫之助の「バラが咲いた」は特記すべき作品となりました。

日米安保条約改定時の学園闘争を契機にブームを起こしたフォークソングは、森山良子が旗頭として台頭し、阿久悠や山上路夫の出現は、これまでの七五調の歌謡詞をくつがえし、沢田研二や布施明などと組んで新しい歌謡曲を作りはじめました。

そして、従来の歌謡曲の枠に入りきれないロックやフォーク、さらにポップスが続々誕生しこれらを総称したニューミュージックは松任谷由美らが使い始めたといわれていますが、そうになると、これまでの七五調歌謡曲は全く色合いの違った分野であるかのように扱われ、小沢昭一をして「俺たちおじさんの唄える歌がなくなった」と、一種の「嘆き節」をうたわせるようになって、どっちを見てもヤングパワーに溢れ 中高年に好まれる歌は影をひそめるようになってきました。これも時代のなせるわざでしょう。

レコード盤のラベルも「流行歌」のラベルは、波間に揺れ動く木の葉のようになって肩書きなしのものになってきました。

四十三年に「星影のワルツ」が空前のヒット曲になりました。後にこの歌は御詠歌にも似て、日本人の心の琴線に触れ、これこそ演歌だといわれましたが、このときはまだ演歌とは言われていませんでした。

この年、鶴岡雅義の「小樽のひとよ」が出て、これもヒットしました。ここで注目したいのは、ラベルに歌謡曲と表示されたことです。これを見てもレコード会社が『流行歌』の表示に戸惑いをみせ、迷いにまよっていた状況がうかがい知れます。

前年のブルー・コメッツの出現につづいてフォーク・クルセダーズの「帰ってきた酔っぱらい」から、ザ・タイガースの「シー・シー・シー」のヒットでグループ・サウンズのデビューが相次ぎ、彼らの黄金時代がやってきました。

こうして歌謡曲の形態が変わってくるのに合わせて、もう流行歌とはいわなくなってきました。

四十九年頃からカラオケが出現しました。カラオケは風俗社会史に記録すべき社会現象を呼び起こしました。

カラオケは、もともとレコード会社の隠語でした。歌手が楽団なしでも唄えるよう、あらかじめ伴奏用に録音しておくものでした。これを素人でも歌えるようにしたアイデア商品です。素人が歌手気取りで気分良く唄えるとあって大歓迎されました。

最初、大阪から始まったものですが、カラオケ喫茶が出来ると、マスコミにも乗って、東京へ飛び火して、たちまち燎原の火の如く全国に広がっていったのです。

その頃、最も喜んで迎え入れたのは中年以上のサラリーマンで、組織の重圧から開放されようと、酒と共に気分転換をはかる、もってこいの道具でした。

戦時中、敵性音楽として禁じられた西洋音楽を身につける機会がなかった彼らは楽譜を読むことができず、ロックやニューミュージックにも馴染めない彼らは、古賀政男、船村徹、遠藤実、市川昭介、中村泰士、猪俣公章らの作った曲を愛唱しました。遠藤実の「くちなしの花」が出て、継いで五十三年の「北国の春」「夢追い酒」、小林幸子の「おもいで酒」が、カラオケで愛唱され、歌の世界が一転しました。これらの歌は演歌として定着してきました。

かつては流行歌の名曲であった古賀政男の「影を慕いて」「酒は涙か溜息か」も演歌といわれるようになりました。私たち年代には違和感を持つ方もあろうかと思えます。

時代の進展につれ、歌謡界を取り巻く環境は変化し、歌謡曲は分裂し、ニューミュージックに対抗するかのよう演歌がひとり歩きをはじめたといった感じです。

ですから、ここで皆さんにはっきり認識していただきたいことは、いまわれわれが知っている演歌とは、決して古くからあったものではなく、比較的新しく言われるようになったということ。年代的には五十年代から一般化したもので、マスコミの波に乗って普及があまりにもめざましかったこと。言葉の魔術があまりにも強烈だったこと。そうした効果で演歌は急速に定着したのです。

歌謡曲の代名詞のように使われ 一時代の寵児として君臨した流行歌はニューミュージックの圧力の前に、もろくも押しつぶされて、演歌にある部分の命を託して惜しむ間もなく消え去ったのです。それは五十年代初めころと言っていいでしょう。

それでは、ここで根強く息を保ち続けた演歌とは何か。その辺の謎解きは、次回に回したいと思えます。

※ 流行歌は、いまでは「昭和歌謡」として、テレビ番組でよく登場するようになってきました。

[つづく]

6. 解説「関連データ・用語・仕組み」：TOKYO 2020 の計画

2020 東京オリンピック・パラリンピックの開催[オリンピック開催期間：2021 年 7 月 23 日(金)～8 月 8 日(日)、パラリンピック開催期間：2021 年 8 月 24 日(火)～9 月 5 日(日)]が迫っている。コロナパンデミックの中、オリンピックの理念(精神、ムーブメント、基本方針)、開催経費を改めて確認すると、以下の通りである。

- **オリンピックの精神**：スポーツを通して心身を向上させ、文化・国籍などさまざまな違いを乗り越え、友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって、平和でよりよい世界の実現に貢献すること。近年は従来のテーマである「スポーツ」と「文化」に「環境」が加わる。
- **オリンピックムーブメント**：国際オリンピック委員会（IOC）の統括のもと、オリンピックの精神に従って、スポーツを通じて平和でよりよい世界の実現をめざす活動
出典：(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の公式ホームページ
<https://olympics.com/tokyo-2020/ja/>
- **オリパラ基本方針の概要 ～基本的な考え方～** 平成 27 年 11 月 内閣官房オリパラ事務局
http://www.kantei.go.jp/jp/topics/2015/2020olym_paralym/20151127olym_gaiyo.pdf
 1. 国民総参加による「夢と希望を分かち合う大会」
 2. 次世代に誇れる遺産（レガシー）の創出と世界への発信
 3. 政府一体となった取組と関係機関との密接な連携の推進
 4. 明確なガバナンスの確立と施策の効率的・効果的な実行
- **開催経費**：7,340 億円 ※招致段階
 - 1 兆 3,500 億円（国の負担：1500 億円） ※組織委員会 2019 年 12 月
 - 3 兆円超 ※2016 年 9 月 東京都調査チーム、2018 年 10 月産経新聞
 参考 1：「IOC」と「五輪貴族」を支える商業的システムの実態…日本が変えたオリンピックの“あるルール”とは 文春オンライン <https://bit.ly/2QWnn27>
 参考 2：東京五輪・パラ経費 3 兆円超か 検査院指摘、国支出 8011 億円で膨らむ、産経新聞、2018.10.4 <https://bit.ly/3wCGHQW>

開催可否の権限の問題もきているが、契約を見る限り、開催都市側からの解除に関する記述は見当たらず、IOC 側からのみの片務的な契約と思われる。

- **開催都市契約 2020**：XI. 解除 66. 契約の解除 a) IOC は、以下のいずれかに該当する場合、本契約を解除して、開催都市における本大会を中止する権利を有する。
出典：組織委員会 HP <https://olympics.com/tokyo-2020/ja/>
 参考 1：五輪のため「犠牲を」バツハ会長 2021/5/24 08:33 (JST)5/24 13:15 (JST)updated 共同通信 <https://this.kiji.is/769340987563622400>
 参考 2：IOC、緊急宣言下でも五輪可能 コーツ調整委員長が明言 2021/5/21 23:17 (JST) 共同通信 <https://this.kiji.is/768434669786021888>
 参考 3：IOC 重鎮委員が独占告白「菅首相が中止を求めても、大会は開催される」 「週刊文春」編集部 週刊文春 2021 年 6 月 3 日号 <https://bit.ly/3oScf2N>
 参考 4：【東京五輪】賠償金なしでの開催中止に後押しか 国連事務総長がコロナ禍“戦時見解” 2021 年 05 月 24 日 東スポWeb <https://bit.ly/3yIPcMc>

7. Blog 仕組みの群像 : コロナ禍の諸相

新型コロナウイルス感染症が中国武漢市で 2019 年秋/冬に発生して以来、約 1 年半になる。いまや日本のコロナウィルスの 9 割以上が英国由来の変異株に置き換わり、さらにはインド株への置き換わりが懸念される状況に至っている。そうしたコロナ禍の中、それまで一般的にはあまり使用されていなかった専門用語や社会的用語が使用され一般化された。さらには、「お一人様」も見直されている。コロナ禍がまだ 1 年ほど続くと見込まれる今、静かに深く物事の本質を考える端緒としてコロナ禍の諸相を整理し、ブログにアップした。

▼Blog 仕組みの群像 : コロナ禍の諸相

<https://shikumi-gunzo.hatenablog.com/>

8. 読者の声

[読者の声 1] いつもありがとうございます。紹介「海外に学ぶ」(デンバー・コロラド)とても興味深く読みました。高齢化する日本の都市の将来にとって参考になります (W. Y.)

9. Japa からのご案内

▼Japa は、会員(正会員、一般会員)、連携団体を随時募集しています。

Japa はより多くの方々が会員として交流・連携・共創できることをめざして、そして、Japa の活動にご支援賜りたく、新たに「一般会員」(年会費 3 千円)枠を設けました。

入会金無料のいま、ぜひ、入会のご検討を賜れば幸甚に存じます。

入会に関するお問合わせ先 : Japa 事務局 info@japa.fellowlink.co.jp

▼Japa は、「Japa 新型コロナウイルス感染症 特設コーナー」を開設して、アーカイブすべき情報を随時アップしています。ご活用下さい。また、アーカイブすべき情報があればご連絡ください。

Japa 新型コロナウイルス感染症 特設コーナー <https://www.japa.fellowlink.jp/blank-25>

10. つばやき (編集後記に代えて)

大関に復帰したばかりの照ノ富士が大相撲 5 月場所で優勝した。2017 年秋場所後に大関から陥落して一時は序二段まで番付を落としたが、来場所に横綱昇進がかかる。約 4 年の間の闘病、リハビリの苦勞が忍ばれる。最初に大関に昇進したときは、飛ぶ鳥落とす勢いであったが、今回は一味違う。「力を振り絞って最後までやりたい」。膝が持つ限り精一杯やり、あとは天命を待つという覚悟を感じる。こうした覚悟を持った生き様ができていく日本人がいま、何人いるだろうか、・・・。

編集発行人 : Japa 日本専門家活動協会 代表理事 芝原靖典

問合せ・連絡先 : info@japa.fellowlink.co.jp

発行元 : Japa 日本専門家活動協会 <http://www.japa.fellowlink.jp/>

Copyright © 2021 Japa 日本専門家活動協会